



第118号
島根県立
出雲工業高等学校
進路指導部
印刷 (街)西村印刷

進路実現に向けての準備

校長 松原紀夫

今年度はコロナウイルス感染症対策の転換期となりました。「例年のように」とか「コロナ禍前と比べて」といったことばを見聞きするようになりました。過度に恐れず、適切な対策を取りながら教育活動を行っていきたくと考えております。

さて、いよいよ本格的に就職活動の時期になりました。3年生の皆さんは、中学生のときから、あるいは、もっと幼い時期から「なりたかった自分」の実現に向けて本校で頑張ってきたことと思います。ふりかえてみると、入学時に想像した自分とは少し違うかもしれないけれど、工業高校で学んだこと、できるようになったことを武器にして、進路実現に向かっていってくれるものと期待しています。

では、進路実現のための準備はどれくらい進んでいるでしょうか。過去問題や参考書、進路先の資料やHPなどは取り組まれるかと思いますが、新聞記事、本校の資料やHP、進路先の地域の情報などと広げていくと、準備は無限にありそうです。私は、あるイベント（特に今までやったことのないもの）に向けて準備をする場合は、他人から見なくてもいいところまで準備をする場合がありません。例えば、会場の場所や行き方などを頭に入れておかないと不安になります。イベント期間プラス1日分の着替えがないと不安です。このように不安が全てなくなることはありませんが、準備リストをつくって、当日を迎えるまで少しずつ準備を樂しむようにしています。

そこで、面接試験に臨む準備として、まずは、自分の強みと向き合ってみましょう。部活動を三年間がんばった人と勉強をがんばった人では、自己PRが異なってきます。主将や部長の経験、資格取得や生徒会活動、ボランティア活動などをふりかえり、自分の強みをできるだけたくさん集めましょう。その強みを活かして進路先でがんばりたいとすれば、志望動機の一部になります。「最近気になるているニュース」などの質問でも、答えを出すだけでなく、自分の考えをまとめておきましょう。その

答えの根拠、理由になります。どんな人にも当てはまるものではなく、自分の面接内容になるような具体的なエピソードを集めておきましょう。本校で学んだこと、できるようになったことを胸張って披露する場として欲しいと思います。

本校は、ものづくりを教育の中心に位置づけている学校です。地域に愛され、必要とされる存在であり続けたいと思います。皆さんが「なりたい自分」に近づけるよう精一杯支援していきます。

情報を収集し、正しく活用する

進路指導部長 勝部寛明

今年の五月八日から新型コロナウイルス感染症が第五類に移行し、学校内でもマスクを外して生活する生徒が多く見られるようになりました。

が当たり前で、お互いに顔全体で感情を表現してコミュニケーションがしっかりとれるような環境に早くならないかと思っています。

一 進路決定に向けて

一方で、市内で生活しているとまだまだ多くの人がマスクを着用しています。他者の感情を目元で感じるのが日本人、口元で判断するのが外国人という調査を目にしたことがあります。マスクがあっても大丈夫なのかもしれませんが、マスクがないの

三年生は七月一日の求人票の解禁から進路決定に向けての動きが本格化しています。七月十日現在の集計では県内企業から三百二十一名、県外企業から九百七十五名の求人が来

ています。少子化の影響もあるでしょうが、ここ数年、高校新卒の就職は売り手市場になっていきます。自分のやりたいこと、なりたいたいのをよく考え、多くの求人の中から応募する企業を選ぶ必要があります。本校では、就職希望者は原則全員が応募前職場見学に参加することとなっています。就職した後に、自分が考えていた仕事と違う、やりたいことと違うというミスマッチを防ぐためにも必要なことです。パンフレットやHPなどで調べることも大切ですが、百聞は一見にしかず。体験しないと分からないことはたくさんあるものです。

また、就職だけでなく、進学も情報収集が大切です。総合型選抜や学校推薦型選抜、専願と併願など言葉は知っているけど、本当はよく分かっていないということがまだあるのではないかと思います。情報とは与えられるものもありますが、自ら調べるところからこそ身につくものでもあります。就職や進学は、高校生のみなさんが、これまで経験した人生の岐路のなかで最も大きなものだと思います。だからこそ、事前に多くのことを調べておくこと。そして大切なのは自分で必要だと感じ、自ら動き出して情報を得ることだと考えています。

◎就職と進学

就職と進学を考えるとき、よく登場するデータがあります。それは生涯賃金です。高卒と大卒でおおよそ五千万円の差があると言われます。しかし、このデータはあくまでも平均です。例えば、医師などの専門性が高く高収入である仕事は大学進学が必要になります。このことを考えると、進学しなければ取得できない資格があることが賃金の差に繋がっているという面があるということです。一方で、高卒で就職することは、大卒よりも早く社会人としてのキャリアをスタートすることです。大卒よりも早く社会人として経験を積み、資格を取得しながらキャリアアップを目指すことも可能です。要は、自分への付加価値をどのようにしてつけるか、だと考えると良いでしょう。

◎付加価値をどのようにしてつけるのか

進学して、専門性を高め、資格を取得する。分かりやすい付加価値の付け方です。文科省の調査（令和三年度）によれば八割強の高校生が進学を選択しています。少子化などの影響から進学がしやすくなったという面はありますが、高額な学費や生活費が課題となっています。一方で、

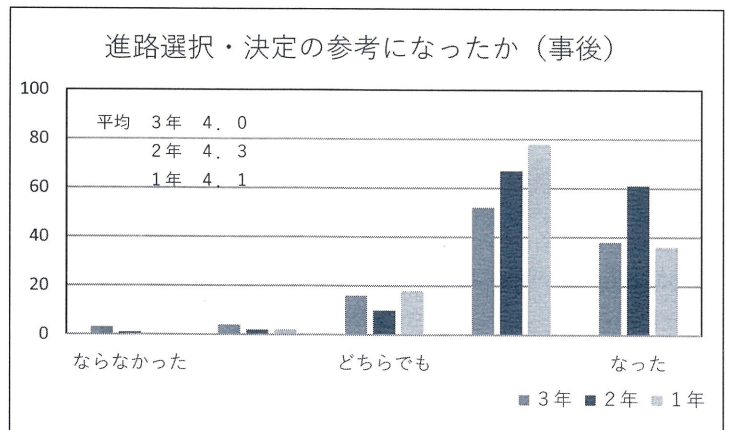
高卒求人は前述しましたが、引く手あまたの状況です。早く社会人として様々な事に挑戦することで進学よりも速いペースで成長するというところも考えられます。多くの企業が資格取得の支援（研修や報奨金、手当など）を行っています。高卒新人への研修内容を充実させ、手厚く指導しているという企業も増えています。進学し、たくさん事を学びながら資格を取得し自分に付加価値をつけるという考え方は分かりやすいですが、働きながらスキルアップ（資格取得）、キャリアアップ（多くの経験）をすることで、自分に付加価値をつける方法もを知っておきましょう。

二 企業説明会

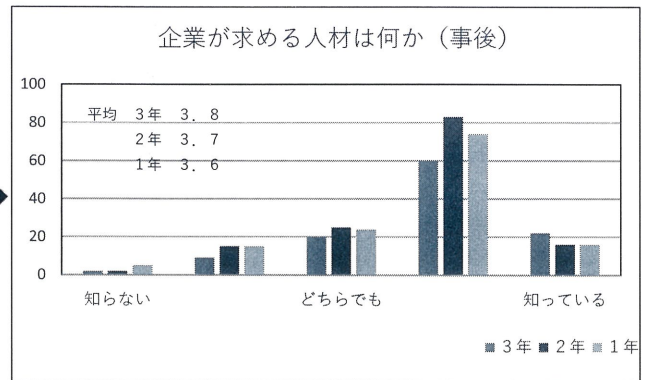
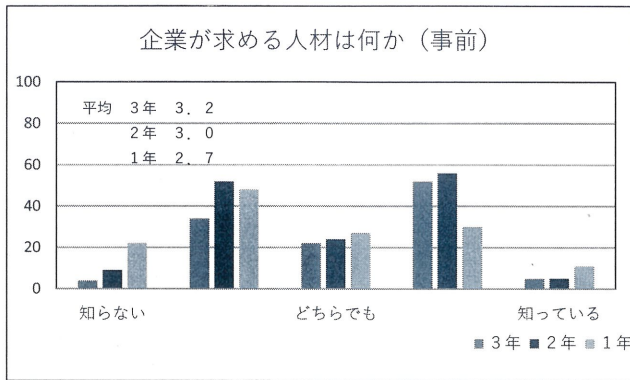
五月二十二日に本校において企業説明会を実施しました。自分の将来を考えるうえでこういった学校行事を活用することはとても大切です。限られた時間をもっと有効に使うということを意識して参加しましょう。

就職と進学に悩む生徒は多いです。しかし、進学するにしてもいざれば就職することになります。今のうちから、職業について深く考え企業が求める人材について知っておくことはとても大切です。

進路選択・決定の参考になったか（事後）



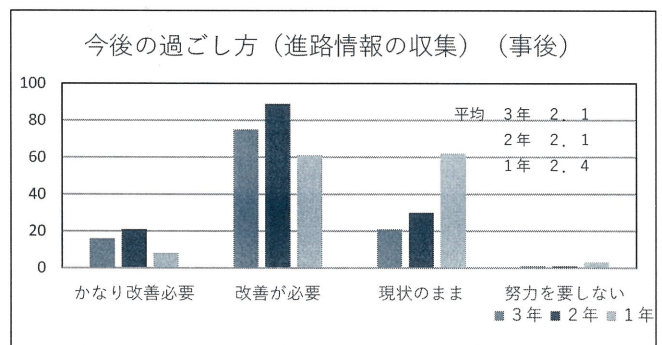
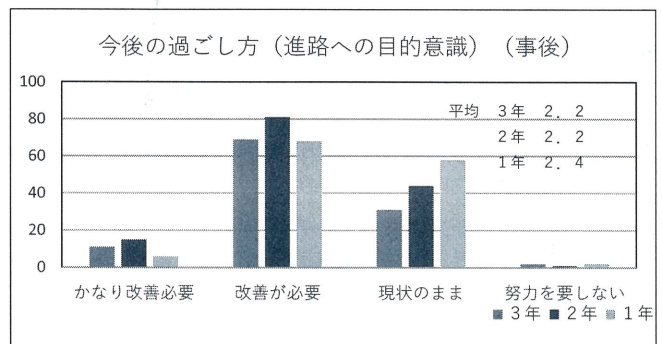
挨拶などの礼儀作法を含めたコミュニケーション能力の向上と、資格取得を含めた専門性の向上が就職には欠かせません。本校では『ものづく』という専門性を高める授業を受けることができます。これは普通高校ではできない専門高校の強みです。言い方を変えれば、高校新卒で高い専門性を活かした就職ができるのが本校の強みということですね。一方で、進学するのであれば今の専門性をより高めなければ進学する意味がありません。今のうちから企業が求める人材について学び、どんな分野を深



く学び、どんな資格取得が就職に有利に働くか知っておくことは進学先を決める参考になります。

これから三年生は就職選考に向けて忙しい日々を過ごすことになりまが、目標達成のために頑張りましょう。また、将来について事前に調べるとい活動は一、二年生から始められることです。学校行事に積極的に参加することを大切にし、今、自分が学んでいる内容と仕事はどう繋がっているのか知っておきましょう。

いざ就職、進学となったときに何も知らないでは間に合いません。知っていたけど資格取得はしていません



では、情報を得ていた意味がありません。情報を得たら、必ず活用しましょう。

一、二年生は、まだまだ時間があると考えている人が多いですが、三年間という高校生活は考えているよりも短いものです。高卒で就職の方が良いのか、進学してより専門性を高めてから就職した方が良いのか、しっかり調べて考えておきましょう。

そして、その情報を活用して高校生活を充実させましょう。



「私は自分に向いている職業に就きたいけど、自分はどんな仕事に向いているか分からない。」

この学生の希望としては、「自分に向いている職業に就けば、多少の苦労があったとしても乗り越えられると思う。そうすれば、長くその仕事を続けられるだろう」という考えです。私は、この気持ちをとてよく分かりませんし、決して後ろ向きな考え方ではないと思っています。しかし私は、この悩みを持った方々へ

先輩からひとこと

やりたいこと、
やってみよう

鴨山達郎

私は、生徒の皆さんにお話ししたいことがたくさんあります。しかし、ここで全てをお話しすることは難しいので、今回は進路選択で悩むとしたら「自分に向いている職業は何か」を考えるのではなく、「自分がやりたいこと、やってみよう」とは何か」を考えるべきだというお話をします。

私は今まで専門学校で進路選択について悩んでいる学生から相談を受けてきました。その際によく聞く悩みがこちらです。

はこのように言っています。

「自分に向いている職業に就いたら、仕事で何か問題が起きた時に、自分はこの職業に向いていなかったと思つて辞めてしまうのではないだろうか。」

これは脅かしているわけではなく、就職して仕事をすると、必ずもれなく全員が困難な問題に直面します。

その時に問題を突破するために頑張れるとしたら、「自分に向いている」からと思つて行うよりも「自分がやりたいこと、やってみたいこと」として選んだ仕事の方が頑張れるのではないのでしょうか。また私は、「自分に向いている職業」に就いた方々を知っています。その多くの人が早期に転職をしています。その転職理由の多くは、「やっぱり自分に向いていなかった。」というものです。

ちなみに私はあと数年で五十才になり、転職や異動経験もありますが一度も「自分に向いている職業（仕事）」に就いたことがありません。それだけならいいのですが、実は「やりたくない職業（仕事）」も経験してきました。そんな私が知っていることは、どんな職業（仕事）でも一生懸命に向き合つて我武者羅に、そして誠実にやると、どうにか問題を乗り越えることが出来るということです。この

経験は私だけでなく、生徒の皆さんの周りにいる大人たちの多くが感じていることだと思えます。

今回は進路について考えるときの一つの考え方をお話ししましたが、ただ他にも生徒の皆さんにお話したいことがあります。例えば、「やりたくない仕事のやり方」とか、「無駄な努力を無駄にしない方法」とかです。学校内で私を見かけたら気軽に声をかけてください。そして残りの学校生活をしっかりと我武者羅に頑張ります。

将来に向けて

黒川将希

三年生にとっては、自分の進路を決める時期がやってきました。部活に入部していた人は、ほとんどの人が引退し、次のスタートに向けて全員が気持ちを切り替えて準備をしていく時期になりました。ですが、なかなか気持ちを切り替えられない人や進路に対してどうしようか迷っている人が多くいるのではないのでしょうか。

今年度、出雲工業高校に赴任してきてもう七月なのかと時間が流れるのが早く驚いています。私も一年前は前任校で三年生の担任をしており、バタバタしながらこの時期を過ごして

いたのを記憶しています。前任校でもまだこの時期に明確な進路先が決まっていた人は多くなかったと記憶しています。正直、まだこの時期になって自分の進路が明確になっていないのかと担任ながら焦っていたと思いません。しかし、コロナの流行により企業見学などに行けなかったことなどを考えると、仕方なかったのかなと今では思っています。

では、みなさんがどのように進路に向けて取り組めばよいと考えますか？まず、自分が思うのは「進路に向けて準備をすること」が大切だと思います。

みなさんも定期テストの前にはテスト勉強などの準備をして取り組んでいますよね。

少し話は変わりますが、私は、前任校の時から弓道部の顧問をさせていたでいます。弓道という競技は、的に矢をどの場所でもよいので的中させ、的中数で勝負を決めます。前任校では、全国大会や中国大会などの大きな大会に出場させていただき、選手のおかげで入賞もさせてもらいました。大きな大会に出場する選手の競技力はほとんど変わります。では何が勝敗を左右すると考えますか？

私はそこに向けての準備だと考え

ています。当時から部員に言っていたのは「準備の大切さ」でした。道具の手入れはちゃんとできているのか、試合までにきちんと試合をイメージができているのか、数えればきりがありませんが口酸っぱく言ってきました。それは、これからの進路にも大切なことだと自分は考えています。

就職する人は七月から今年度の求人票がやってきましたよね。昨年度の求人票は見えましたか？進学する人は学校のオープンスクールなどの日程や申し込みの締め切りなどを確認していますか？さまざまな場面で準備することが多くなっています。

まずは、自分たちが何をしないといけないのかを見つめ直し、将来の進路に向けて少しずつ進んでいきましょう。陰ながら応援しています。

編集後記

「今年も是非、うちの会社に工業の生徒さんを送ってください。」企業の採用担当の方の言葉に、若き技術者としての出雲工業生に対する期待の高さを感じています。またその言葉は、皆さんの先輩がそれぞれの職場で日々築いてこられた信用の賜物でもあります。「信頼のブランド出雲工業」。高めていくのは皆さんです。

(進路指導部 松本 匡)